

トビタテ選考体験記（17期・ダイバーシティコース）

学部・研究科：保健学研究科

学年：修士1年（応募時）

【トビタテ応募前】

- ・トビタテを知ったきっかけ・応募しようと思ったきっかけ

研究室の教授からの案内で応募を知りました。高校生のときには、同級生がトビタテでネパールに行っていたため、存在自体は以前から知っていました。

- ・情報収集はどのように行ったか

情報収集は、noteに掲載されている経験談をよく読んで参考にしていました。また、神戸大学の面接練習に参加した際、書類審査を通過した学生同士でグループを作り、情報共有を行いました。私はX（旧Twitter）やオープンチャットの存在を知らず、ほとんど情報がない状態で準備を始めましたが、数名の学生が先輩トビタテ生や同じ期に応募する人と交流し、多くの情報を持っていたため、その恩恵を大いに受けました。チーム神戸大学のみなさんには本当に感謝しています。

【トビタテ応募にあたり（面接書類対策）】

恥ずかしながら、書類はほとんど情報収集をせずに一人で作成しました。多くの応募者は自己アピールの部分 Postar 風に工夫して見やすくアレンジしていたようですが、私はひたすら文字を並べただけの内容でした。そうした工夫があることを知らなかったのが、正直、落ちるだろうなと思っていました。

しかし、結果的には無事に合格することができました。今振り返ると、形式や見た目よりも、一貫性のある計画や、自分の熱意が伝わることの方が大事なのだと実感しています。

面接も然り、合格しているのは本当にさまざまな方々なので、これが正解という形はありません。

【トビタテ面接にあたり（面接審査対策）】

私は主にキャリアセンターの個別相談を利用しました。トビタテについて知識がある方だけでなく、知らない方にもプレゼンを見てもらい、「一貫性があるか」「自分の伝えたいことが思うように伝わるのか」を客観的に確認しました。正直、準備を重ねるうちに、トビタテ受けの良いプレゼンを意識しすぎてしまっていたのですが、キャリアセンターの方から「それが本当に自分らしさなのか？」と指摘を受け、ハッとしました。また、チーム神戸大学のみんなとカフェで集まり、お互いのプレゼンを見せ合いながらアドバイスし合ったことも大きな支えになりました。

当日は、自分に嘘偽りのないプレゼンをすることを心がけました。話を大きくみせることも一つの方法かもしれませんが、私は自分らしく謙虚に、正直に話す方が自信を持って臨めました。特に大切だと思ったのは、「日本（官民協働のトビタテ）が自分に留学費を投資するメリットは何か？」を明確にし、自信を持って伝えることです。最終的には自分が納得するプレゼンを準備できたことが合格につながったと感じています。

【その他】

もし必要であれば、私でよければいつでも相談に乗りますので気軽にご連絡ください！

神戸大学からこれからも多くのトビタテ生が生まれることを楽しみにしています！